



# 100年企業社員の わが社の **じぶん**

社員の方の日常 **アレコレ** からわかる、  
100年企業の魅力。



社内コミュニケーションの場として、新人歓迎バーベキュー大会。

#対話の場づくりを大切に  
#年末には餅つき大会も  
#コロナ禍では休止で残念...



永年勤続表彰や改善提案表彰など、年間最優秀者も表彰します。

#失敗しても改善すればOK  
#永年勤続や業務表彰もあり  
#社員のモチベーションもUP



地域に残り、愛され続ける仕事にやりがいと誇りを感じます。

#日本全国に残る仕事  
#スイカの名産地・富里で  
#話題を呼んだ巨大スイカ



趣味を謳歌する社員を応援！玄関を社員作の絵画展示スペースに。

#ワークライフバランス  
#8時-5時、週休2日制だから  
#趣味を楽しむ人もいっぱい



安全第一！毎月1日には社員全員でラジオ体操と社長の講話。

#ラジオ体操は毎朝  
#安全は継続と継承から  
#今日も一日がんばろう！



「北九州ゆめみらいワーク2022」でも100年の歴史を紹介。

#社会のエネルギーを支える  
#タンクづくりの仕事に  
#地元中高生も「へえー！」

## 株式会社しろみず

本社・工場：〒808-0023 北九州市若松区北浜2-4-1 TEL.093-761-4631

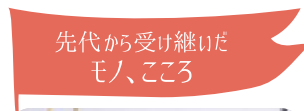
創業：1921(大正10)年3月 ■ 従業員：97名(2023年2月現在)

東京支店・総務部・営業部・資材Gr・製造部・品質管理部・工事部・設計部

本社工場/38,988㎡(建物面積/13,451㎡)

事業概要：高圧、低圧タンク及び压力容器(球形タンク・円筒タンク・有水式ガスホルダー・低温タンク・压力容器・各種タンク)/製鉄関連装置(熱風炉・除塵機ほか)/その他の鋼構造物(各種塔槽類ほか)の設計、エンジニアリング、製作、現地工事、検査、改修及びメンテナンス

(ホームページ) <https://www.shiromizu.co.jp>



「信頼 技術」—創業時からのしろみずの真髓を伝えるモニュメント。初号納入時に試作された給水塔の水タンクでTV番組「空から日本を見てみよう」で「大きなけん玉」と紹介されたことも。



高校生や大学生を対象とした工場見学やインターシップにも積極的。2023年2月には理系学生限定の先進ものづくり企業を知り「企業特別体験会」にも参加。女性社員も働きやすく、育児休業、時短勤務など柔軟な働き方にも対応しています。

ホームページ



発行/若松プライド・プラスワン推進協議会(北九州市 若松区役所 総務企画課内) TEL.093-771-3559



この「若松レガシー」はポートレース若松の事業費の一部を活用して作成しています

東邦チタニウム株式会社 東邦チタニウム株式会社は当事業に協賛します

令和5年3月発行

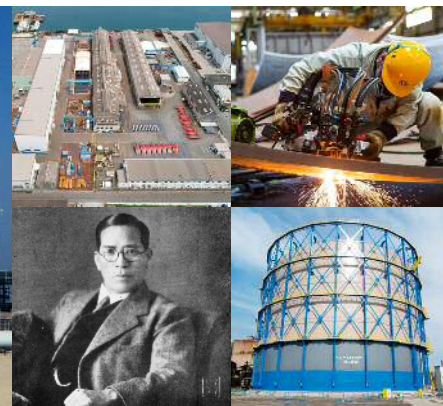
# 100↑



## 若松レガシー

### 株式会社しろみず

石炭の積出港として日本の近代化を支えた若松の誇り、100年企業を紹介するシリーズです。



## 創業100年を迎えた「株式会社しろみず」のひみつを探ってみた。

### リベット打ちの名手が「城水組」創業

1921(大正10)年3月、39歳の城水末吉が若松で「城水組」を創業。青年時代に釜山でのガスタンク工事を経験し、ドイツ人技師に最新のリベット(釘)打ちとコーキング(充填剤で補強する工法)技術を学んだ彼は、リベット打ちの名手で、手がけたガスタンクはコーキングを施さなくてもガス漏れしなかったと言われるほど。その高い技術力をもって踏み出した、有水ガスホルダーメーカーとしての一歩でした。

### 卓越した技術力で海外事業にも進出

製品の精密さと納期の確実さで「技術の城水」と信頼があつかった「城水組」。2代目を継いだ長男・城水芳雄は社名を「株式会社城水鐵工所」と改め、技術の継承を図りましたが、42歳の若さで急逝。求心力を失った城水鐵工所は業績悪化をたどり、倒産が危ぶまれた時期もありました。再興に向けて白羽の矢が立ったのは、東大理学部卒、当時の経済企画庁(現内閣府)勤務経験もあつた4代目社長の相原平男です。以降、地場の新日鐵八幡製鐵所だけでなく、石川島播磨重工業(現IHI)や住友金属などとも関係を深め、再建に取り組んでいきました。1960年代半ばからは、

## 球形ガスホルダーで国内トップシェアを誇る信頼の技術

海外での事業にも本格的に乗り出し、パキスタン(現バングラデシュ)やサウジアラビア、イラク、イラン、マレーシアなどでタンク建設を請け負います。1979(昭和54)年には中国市場にも進出。海外においてもその卓越した技術力は評価され続けました。

### エネルギーを守り後世に残る仕事を

1991(平成3)年、社名を親しみやすく柔らかい印象にしたいと「株式会社しろみず」に改称。ステンレス事業を立ち上げるなど新たな挑戦にも踏み出しました。ISO9001など品質マネジメントシステムに関する国際規格も取得。以降、時代の変革に対応する技術継承と働き方改革を図り、創業100周年を迎えました。タンクの素材や中に入るものは違えども、変わらないのは、人々の暮らしに欠かせない大切なエネルギーを守り、後世に残る仕事をしているという自負。根底にタンク専門メーカーとしての気概が流れています。

主な事業内容

【タンク等下記の設計、エンジニアリング、製作、現地工事、検査、改修及びメンテナンス】高圧、低圧タンク及び压力容器(球形タンク・円筒タンク・有水式ガスホルダー・低温タンク・压力容器・各種タンク)/製鉄関連装置(熱風炉・除塵機ほか)/鋼構造物/各種ステンレス容器





【インタビュー】

## 社長さんに聞いてみた。

株式会社しろみず 代表取締役社長 田中 正秀さん

タンクは入れるものが変わっても、産業がある限り無くならない。社員に長く働き続けてもらうための環境づくりを大事にしています。

### 一若松の地でなぜ102年続いてきたのか？

工場が林立する若松では、職人が技術を磨くチャンスが多かった点と、創業者・城水末吉が工場の壁に自ら記した言葉を守り継いだこと。「やって見よ。出来るから」「正確と思った時に今一度」「馴れた仕事に重ねる注意」「実力と努力と経験以外のものを頼みにするな」など、今にも通用する教えを守り、「しろみず」と言えば無条件に仕事をくれる得意先がいくつもあった時代もありました。

### 一しろみずならではの強みや魅力は？

タンク建設というニッチ分野に特化し、設計から製作、現地建設、品質管理まで、すべての工程を自社一貫体制で請け負い、お客さまに素早く最適な提案ができるのが強みだと思います。タンクは中に入れるものが変わっても、産業がある限り無くならないものです。ニーズの変化に責任を持って挑み続けければ、次の仕事に必ずつながります。

### 一6代目社長としての目標は？

老朽化など課題が山積する中で、「卓抜した技術力とコスト競争力で『顧客にとって必

須の存在』を目指そう」という目標を掲げました。工場には新しく日本有数の大型成形機やNCベンディングロールを導入し、しろみずの技術力をより一層レベルアップ。次の100年に託せるようにしたいと思っています。

### 一社長が目指す働き方改革とは？

長年の経験で培った熟練の技能者がいてこそ、お客さまに満足してもらえる品質と納期が確保できます。そんな社員にどうしたら長く勤めてもらえるかを考え、今までになかった社員との対話の場を設け、職場をより快適化するに腐心しています。工場では半自動化も進め、これまで作業負荷が大きかった部門も働きやすい環境を整え、社員の健康維持や仕事の効率化を目指しています。

### 一社長の好きな言葉やモットーは？

創業者の言葉にも通じますが、社員には「とにかくなんでもやりなさい」と言っています。結果失敗しても、その原因と再発防止策を徹底検討すれば不問とします。社員には失敗を恐れず挑戦してほしい。「力を尽くして狭き門より入れ」も好きな言葉です。

## 社長の休日



60歳まで市民ランナーだったという田中社長。今は家庭菜園に勤しみ、野菜が成長するのを楽しみにしています。



## しろみず 102年の軌跡

時代	年	内容
大正	10 (1921)	城水末吉が高級製缶製作据付を専門とする「城水組鐵工所」を創業
	6 (1931)	組織を「株式会社城水組鐵工所」と改め法人組織とする
	25 (1950)	社名を「株式会社城水鐵工所」と改める
	37 (1962)	千葉工場を建設(1996年休止)
	38 (1963)	五市合併。若松市から若松区へ
昭和	39 (1964)	高圧ガス保安法溶接施工方法確認試験認可、ガス事業法溶接方法承認(通商産業省)
	48 (1973)	ボイラー及び第一種圧力容器製造許可
	49 (1974)	建設業業種別(土木、鋼構造物、機械機器設置)認可(国)
	50 (1975)	電気事業法溶接方法の認可(通商産業省)
	54 (1979)	韓国/東亜化工機(株)と技術提携(供与)
平成	7 (1995)	ステンレス工場新設
	9 (1997)	特定建設業(管工事業)認可(建設省)
	12 (2000)	ISO 9001品質システム審査登録
	13 (2001)	創業80周年、事務所増設
	26 (2014)	新成形機工場新設(3000ton成形機設置)
令和	28 (2016)	特定建設業(解体工事業)認可(国土交通省)
	3 (2021)	創業100周年、新成形機工場増設(NCベンディングロール設置)



昭和  
平成  
令和

56 (1981)	特定建設業(鋼構造物工事業、機械器具設置工事業)認可(建設省)
58 (1983)	サウジアラビア/ジェッタ JAMJOOM CORPORATION FOR COMMERCE & INDUSTRYと技術提携(供与)
59 (1984)	消防法溶接施工方法確認試験認可
62 (1987)	中国/上海技術サービスセンター設立
3 (1991)	創業70周年、社名を「株式会社しろみず」と改める
4 (1992)	本社事務所新築
6 (1994)	加工施設及び再処理施設に係わる溶接方法の認可(科学技術庁)
7 (1995)	ステンレス工場新設
9 (1997)	特定建設業(管工事業)認可(建設省)
12 (2000)	ISO 9001品質システム審査登録
13 (2001)	創業80周年、事務所増設
26 (2014)	新成形機工場新設(3000ton成形機設置)
28 (2016)	特定建設業(解体工事業)認可(国土交通省)
3 (2021)	創業100周年、新成形機工場増設(NCベンディングロール設置)



## 若松のまちや人との関わり

創業時から変わらず、社会への奉仕や貢献を実践する会社。

### 若松・金比羅神社に創業者が鳥居を奉納。

若松市議会議員や若松商工会議所の会頭も務めた創業者の城水末吉は、罪を犯した青少年の更生にも尽力し、社会事業への寄付も惜しまない人でした。構内には日本三大稲荷の一つ、祐徳稲荷神社の分社を建て、毎年地元の人々を招いて初午祭を行っていた時期も。1940(昭和15)年11月に若松の金比羅神社に奉納した鳥居は今なお残っています。

### 工場周辺の清掃や若松北海岸の清掃にも参加。

しろみずでは、「自分たち5の街は自分たち5の手できれいにしよう」と、工場周辺のゴミ拾いや草刈りを行ったり、「クリーン北九州」まち美化キャンペーンなどにも積極的に参加しています。若松北海岸での清掃開催時には社内に伝達し、新入社員など若手社員にも声かけ。このほか地域の花火大会や港まつりにも協賛しています。



## しろみず x SDGs 培った貯槽建設技術を通じて、カーボンニュートラル社会に貢献。

時代とともに変遷するエネルギーに適応した貯槽建設を行ってきた「しろみず」。タンクづくりは、エネルギーの備蓄や、エネルギー供給量と使用量の差を吸収するために不可欠であることから、持続可能な社会づくりに貢献することを宣言。工場内天井照明のLED化や省エネ機器の選定、クレーン等動力のインバーター化などにも取り組んでいます。また、世界で最も信頼される Ecovadis 社(仏)のサステナビリティ調査において、上位25%の「シルバー」評価を獲得しています。

【社会への貢献】(7.9) 貯槽技術を通じて社会にエネルギーを安定供給するための製品を提供します。 洋上風力の基礎構造物の加工に2022年から参加

①洋上風力発電など自然エネルギーを活用するための製品、半製品を社会に提供します。

【環境】(7.12) ①環境にやさしいモノづくりをします。

【労働と人権】(3.5.8) ①従業員の健康と安全を重視し、働きやすい環境を目指します。

【倫理】(16) ①社会的規範にもとづく企業活動を行います。

【持続可能な資材調達】(12) ①取引先や協力会社とともに持続可能な資材調達を実現します。

